

令和5年度全日本少年少女武道（剣道）錬成大会要項

1. 趣 旨 全国の小学生を対象に基本を主眼とし、剣道の正しい普及並びに心身の錬磨と相互の親睦を図り、我が国の将来を担う青少年の健全なる育成に資する。
2. 主 催 公益財団法人日本武道館・公益財団法人全日本剣道連盟
3. 後援(予定) スポーツ庁・日本武道協議会
4. 主 管 一般財団法人東京都剣道連盟・東京都学校剣道連盟
5. 期 日 令和5年7月22日(土)、23日(日)
午前7時20分受付開始・8時40分開会・午後6時閉会(予定)
6. 場 所 日本武道館 東京都千代田区北の丸公園 2-3
7. 参加資格 健康上支障ないと認められた小学4・5・6年生で、責任者のいる団体であること。
8. 錬成種目および内容
試合錬成(団体試合)
 - (1) 試合は、8試合場(8ブロック)に分ける。
 - (2) 試合は、トーナメント方式で行い、基本判定試合及び1本勝負の総合判定によりベスト8を選出する。
 - (3) 各試合場のベスト8から上位の試合は、3本勝負とする。
※内容詳細は、別紙「試合実施要領」を参照のこと。
9. 参加基準
 - (1) 1団体1チームの参加とする。
 - (2) 1選手1団体でのみの登録とする。
 - (3) 1チーム「先鋒」・「中堅」・「大将」の選手3名、補員1名、監督1名で編成する(学年順序不同・男女混成可)。なお、チーム編成上、やむを得ず選手が3名に満たない場合は、「先鋒」、「大将」に配置すること。
10. 試合・審判規則
全日本剣道連盟剣道試合・審判規則とその細則及び別紙「錬成大会 試合実施要領」により行う。
11. 参加方法
 - (1) 申込方法 別紙の申込用紙またはインターネットで申し込むこと(ただし、本年度初めて大会に参加する団体は事前に団体登録を申請すること)。インターネットで申し込む場合は、別紙「インターネット参加申込受付のご案内」を参照のこと。
 - (2) 参加費 5,000円とする(同封の振込依頼書で申込締切期日までに送金のこと)。
※一旦納入された参加費は、一切返金しない。
※今年度は、3人制での実施に伴い、記載の金額とする。
 - (3) 振込先 三菱UFJ銀行 神田支店 普通3817467
コウエキザイダンホウジンニッポン フドウカントクベツカイケイケンドウグチ
公益財団法人日本武道館特別会計剣道口
 - (4) 出場日 出場日は原則として各団体の出場希望日とする。ただし、希望に添えない場合もある。7月上旬に各団体責任者宛に通知する(指定された出場日の変更は認めない)。
 - (5) 申込先 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園 2-3 日本武道館振興課 剣道係 宛
※申込書は、封筒で郵送のこと。
 - (6) 申込締切 令和5年6月7日(水)
 - (7) 申込取消及び監督・選手変更
申込後に参加を取り消す場合は、6月7日(水)までに別紙申込取消届にて、前記住所「日本武道館振興課剣道係」宛に送付すること。また、参加を申し込んだ後、団体責任者の交代、所在地の変更などがあった場合、速やかに連絡すること。

裏面もお読みください

※申込完了後の監督・選手変更については、大会当日とする。

大会当日の選手変更について……登録済の選手と登録済の補員との入替のみ認める。その場で、未登録選手の補員登録はできない。

大会当日の監督変更について……登録済の監督と未登録の監督との入替を認める。

※プログラムに記載された監督以外が元立ちを行うと失格となるので、変更をする際は必ず監督・選手変更届を提出すること。

※詳細は、7月上旬に申込責任者宛に送付する「大会参加実施要項」を参照のこと。

12. 表彰 (1) 各ブロックごとに、優秀賞（1チーム）、優良賞（1チーム）、敢闘賞（2チーム）の団体に賞状を、個人に賞状・賞品を贈る。
- (2) 優秀賞のチームには日本武道館より優秀旗（持ち回り）を贈る。
- (3) 参加者全員に参加章を贈る。
13. 安全対策 (1) 安全管理には万全を期すが、大会中に万一事故が発生した場合は、医師または看護師により応急処置を施す。当日、病院などで治療を受けた場合は、主催者が保険の範囲内で初診料を負担する。本人の健康保険証（コピー可）を持参のこと。なお、日本武道館では、武道大会傷害保険に加入している。
- (2) 竹刀の検査は行わないが、監督は選手の竹刀の点検を試合ごとに十分行うこと。
- (3) 監督及び保護者は、参加者が過労にならないよう日程に留意し、特に、発熱等体調不十分の者は参加させないよう配慮すること。
- (4) 監督及び保護者は、試合場内外における参加者の行動に十分注意し、事故防止に努めること。
14. その他 (1) 別紙『令和5年度全日本少年少女武道錬成大会新型コロナウイルスの感染防止について(お願い)』を必ず一読のこと。
- (2) 本大会申込にて取得する個人情報は、大会の事務連絡及びプログラムなど、大会運営に関することに利用し、他の目的には使用しません。ただし、申込書に記載されている団体名・団体責任者名・住所などの情報は、(公財)日本武道館及び(公財)全日本剣道連盟が主催する行事のご案内などに利用することがありますので、あらかじめご承知おきください。
- (3) 選手の学年詐称、本大会へ1チームを越えて出場するために臨時で団体を結成するなどの不正行為が発覚した場合、大会当日該当するチームの出場を停止する場合があります。また、次回大会について当該団体の参加を認めない場合があります。なお、大会終了後に発覚した場合も同様の処置をする。
- (4) 主催者の報道関連等が撮影した写真が、報告書・新聞・雑誌・関連ホームページ等で公開されることがあります。
- (5) 主催者の報道関係等が撮影した映像が、録画放映及びインターネットで配信されることがあります。
- (6) 主催者では、宿泊斡旋業務は行わないので、各自で手配してください。なお、弁当の斡旋については、出場団体に対して後日ご案内します。
- (7) 申込締切後の参加状況により、日本武道館内に入場することのできる保護者等の人数を調整する場合があります。詳細は、7月上旬に送付する書類をご確認ください。

[問い合わせ先]

(公財)日本武道館振興課 TEL 03-3216-5134 FAX 03-3216-5117

(土・日・祝日を除く午前10時～正午・午後1時～午後5時)

以上

令和5年度全日本少年少女武道（剣道）錬成大会 試合実施要領

1. 試合は指定した期日の参加チームを8試合場（8ブロック）に分け、各試合場で、優秀賞（1）、優良賞（1）、敢闘賞（2）を決定する。
2. 選手の竹刀の長さは、111cm（約3.6尺）以下とする。
3. 大会内容

(1) 各試合場ベスト8進出までは下記の基本判定試合と1本勝負の2試合を行う。

(ア) 試合内容 ④ 切り返し、打ち込み稽古 ⑤ 1本勝負

(イ) 基本判定試合内容の詳細

監督が元立ちで、主審の合図により、先鋒の選手より下記の基本を続けて行う。

切り返し……正面打ち→前進して左右面4本、後退して左右面5本→正面打ち、以上2回繰り返す。『剣道指導要領』参照（全日本剣道連盟発行）

打ち込み稽古……指導者（元立ち）が与える打突の機会をとらえて打ち込んで、打突の基本的な技術を体得させる稽古の方法である。したがって、充実した気力で遠間から大技で、正しく・間合・姿勢などに留意し基本技・連続技・体当たり・引き技などを繰り返し、打突させる。『剣道指導要領』参照（全日本剣道連盟発行）

○時間は切り返し・打ち込み稽古を含み40秒とする（各コートの時計係が計時を行う）。

○元立ちの竹刀の長さも選手と同じ111cm（約3.6尺）以下を使用することが望ましい。

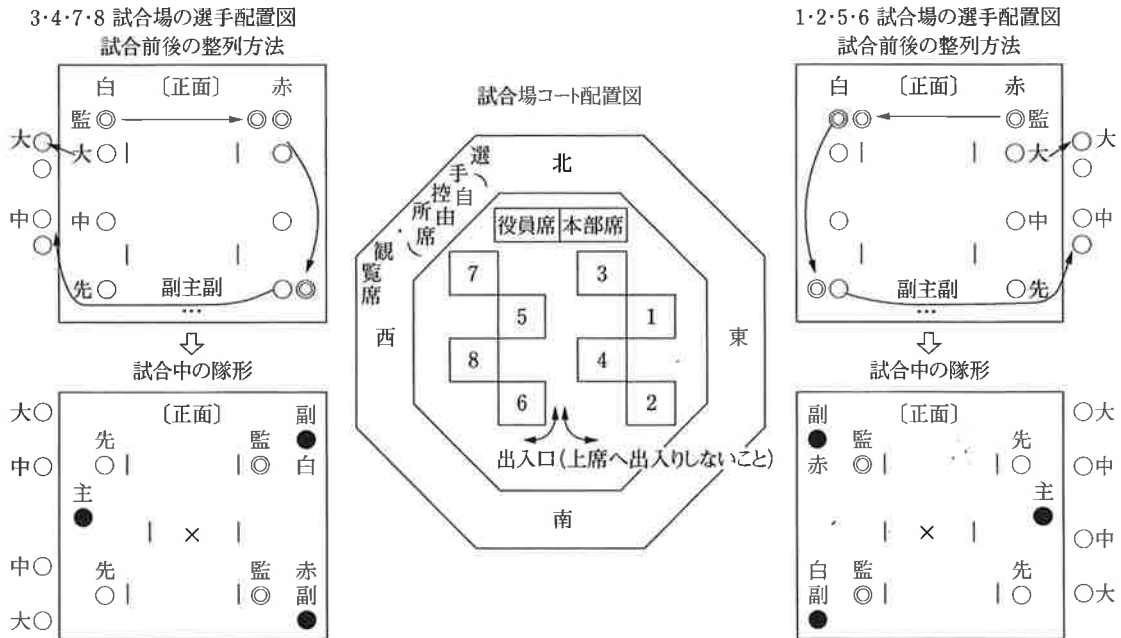
○切り返し終了後、引き続き打ち込み稽古に入る（元に戻らない）。

○必ず監督が元立ちを行うこと。監督以外が元立ちを行った場合、失格とする。

(ウ) 基本判定試合及び審判要領

(a) 試合開始及び終了の際の相互の礼は、監督・選手全員が面、小手をつけ竹刀を持って行う。

(b) 相互の礼及び試合の隊形は、試合場により下記のとおりとする。



(c) 試合は、監督及び選手は立合の位置で立札をした後、開始位置にて先鋒より蹲踞で待機し、主審の「始め」の宣告により40秒間で切り返し、打ち込み稽古（元に戻らない）を続けて行う。

(d) 主審の「止め」の宣告により打ち込み稽古を終了し、判定を待つ。

(e)勝敗は切り返し、打ち込み稽古の総合判定とする（判定基準は下記のとおりとする）。

(f)審判員は主審の「判定」の宣告で勝旗（赤・白）を上げる。主審は勝旗を確認し、「何対何、赤（白）の勝ち」と宣告する（引き分けは認めない）。

〔注：主審赤旗（白旗）、副審2名白旗（赤旗）の場合であっても、主審は旗を持ち替えずに宣告を行う〕

(4) 試合要領と勝者の決定方法

(a)試合は基本判定試合と1本勝負を先鋒→大将の順に行う。

(b)1本勝負の試合時間は1分とし、勝敗の決しないときは引き分けとする。

(c)勝者の決定は、基本判定試合と1本勝負の勝者数、総本数の順により決定する。同数・同本数の際は、基本判定試合で勝ったチームを勝ちとする（1本勝負での勝ち本数は1本とする）。

(例) 勝者数・総本数同数でB道場が勝ちの場合（基本判定試合勝ちチームより）

団体名 A道場	監督 伊藤	先鋒 鈴木	中堅 渡辺	大将 田中	基本判定試合	1本勝負	総本数 勝者数	勝敗
					本数 勝者数	本数 勝者数		
基本判定試合		1	1	1	3	3	6	×(負)
1本勝負		⊖	⊗	⊗	0	3	3	
1本勝負					6	0	6	○(勝)
基本判定試合		2	2	2	3	0	3	
団体名 B道場	監督 吉田	先鋒 斉藤	中堅 山本	大将 佐藤				

(例) A道場が勝ちの場合（総本数より）

団体名 A道場	監督 伊藤	先鋒 鈴木	中堅 渡辺	大将 田中	基本判定試合	1本勝負	総本数 勝者数	勝敗
					本数 勝者数	本数 勝者数		
基本判定試合		1	3	1	5	2	7	○(勝)
1本勝負			⊗	⊖	1	2	3	
1本勝負		⊖			4	1	5	×(負)
基本判定試合		2	0	2	2	1	3	
団体名 B道場	監督 吉田	先鋒 斉藤	中堅 山本	大将 佐藤				

(d)各試合場ともベスト8より3本勝負とし、勝敗を決する。

(e)相手チームが3名に満たない場合でも、相手のいない選手は基本判定試合を1名で行い、審判員は判定する。

(f)当該チームが、赤・白どちらになるかは、トーナメント戦組み合わせの若い番号を赤とする。

(2) 各試合場ともベスト8より、試合は下記により行う。

(7) 全日本剣道連盟剣道試合・審判規則とその細則に準ずる。

- (イ) 試合開始及び終了の際の相互の礼は、選手全員が面、小手をつけ、竹刀を持って行う。
- (ロ) 個人の試合は3本勝負を原則とし、試合時間は2分とする。勝敗は、試合時間内に2本先取した者を勝ちとする。ただし、一方が1本を取り、そのまま試合時間が終了したときは、この者を勝ちとする。
- (ハ) チームの勝敗は、勝者数、総本数により決める。同数の場合は代表者戦を行い、選手は任意とする。代表者戦は1本勝負とし、試合時間は区切らず、勝敗の決するまで行う。
- (ニ) 倒れた者に対する打突は有効としない。

4. 基本判定試合判定基準

(1) 総合評価の着眼点

(ア) ただ速く動作ができていくのではなく、「気剣体一致」の動作で行っているかを見る。

- ① 剣道具・剣道着・袴の着装ができていくか。
- ② 正しい蹲踞ができていくか。
- ③ 竹刀の持ち方は正しいか。
- ④ しっかりと手首（刃筋）を返し、伸び伸びと大きな切り返しができるか。
- ⑤ 切り返しや技を出すとき、左こぶしが左右に動いていないか。
- ⑥ 応じ技を2本以上入れているか。
- ⑦ その技は正しく動作しているか。

(イ) 正しく一つひとつ見るためには、下記のような留意点を観察する必要があるが、少なくとも(1)総合評価の着眼点を見て判断する。

(2) 切り返しの留意点

- (ア) 竹刀の振り方は正しいか。
- (イ) 足の運びは正しいか（退き足が歩み足にならないか）。
- (ロ) 左右面を打つ角度が、約45度になっているか。
- (ハ) 「正面打ち」のとき、一足一刀の間合から打っているか。
- (ニ) 竹刀の打突部で、打突部位を正しく打っているか（元立ちは左右面を必ず竹刀で受けること）。
- (ホ) 「左右面打ち」のとき、左こぶしが正中線を通り相手の見えるところまで上がっているか。
- (ヘ) 「正面打ち」のとき、両腕が自然に伸び、左こぶしが中心（みぞおち）に納まっているか。
- (ト) 最後まで気合いと体勢が崩れないか。

(3) 打ち込み稽古の留意点

- (ア) 足さばきは正しいか。
- (イ) 技に適した足さばきができていくか。
- (ロ) 間合取りが適切か。
- (ハ) 技が正確（気剣体一致）であるか。
- (ニ) 最後まで気合いと体勢が崩れないか。
- (ホ) 残心がなされているか。

5. その他

- (1) 竹刀の検査は行わないが、各監督は選手の竹刀の点検を試合ごとに十分行うこと。特に、ビニールやセロテープを巻いた竹刀は使用させないこと。
- (2) 各チームの監督は、当該試合終了後、勝敗をよく確認すること。
- (3) 試合中は面マスク、又はシールドの着用をすること（両方の着用も可とする）。